

MINI MINT MINE S

平成29年度鉱業博物館特別展

鉱業博物館で開催中!

お雇い外国人メッゲルが残した 阿仁鉱山の近代化

開催期間 | 平成30年3月7日(水) ▶ 5月27日(日)

会場 | 鉱業博物館 2階 特別展示室



ギャラリートークの様子

平成30年3月7日(水)から鉱業博物館特別展示室で、平成29年度鉱業博物館特別展「お雇い外国人メッゲルが残した阿仁鉱山の近代化」を開催しております。この特別展は、2月12日(月)まで阿仁郷土文化保存伝承館で開催していた平成29年度阿仁伝承館・秋田大学連携展を、鉱業博物館に場所を移して開催するものです。

明治時代、政府は日本の近代化を進めるため、各分野に多くの欧米人を技師・教師として雇いました。特別展では、明治12年5月から15年3月までの3年間、阿仁鉱山に派遣されたドイツ人技師メッゲルの足跡と阿仁鉱山の近代化について展示しています。特に、メッゲルの主著「阿仁鉱山報告書」を検証し、阿仁鉱山の近代化改革の実態を説明しています。また、新たに翻訳したメッゲルの阿仁鉱山に関するドイツ語論文や、阿仁の「小澤鉱山絵図」「銀山町の古地図」、「明治初期の阿仁鉱山集落の写真(ガラス乾板)」を公開しています。秋田市では初めて公開される貴重な資料の数々をぜひご覧ください。

開催初日には、今井忠男鉱業博物館長によるギャラリートークが行われました。メッゲルは明治政府から高給で雇われる有能な技術者で、選鉱・輸送の改革に取り組んだことなどについて、詳しく解説しました。このうち、輸送の近代化をすすめる、鉱山経営の改革に取り組んだそうです。とくに輸送については、貨車用の軌道や馬車用幹線道を整備して6つの鉱山に分かれた流通を集約し、さらに阿仁鉱山全体の製錬所を水無村1箇所にして効率化を図り、阿仁六ヶ山は阿仁鉱山と呼ばれるようになった、と話しました。

ギャラリートークには多数の方が参加し、資料やパネルを見ながら、熱心に解説を聞いていました。



大変多くの方にご参加いただきました

平成29年度第3回鉱業博物館開放講座

世界の火山を調査する を開催しました

平成30年3月7日(水)、平成29年度第3回鉱業博物館開放講座が開催され、大場 司国際資源学研究科教授が「世界の火山を調査する」と題して講演をしました。

講演では、中国と北朝鮮国境にある白頭山その他、ニュージーランド、チリ、アメリカ、インドネシア、パプアニューギニア、モンゴルで実施した調査の様子について、各国の文化に触れながら報告されました。このうち、ニュージーランド北島の北部のオークランド火山群は、市街地全体が火山で50以上の火口があり、地下には溶岩が広がっていることが紹介されました。また、インドネシアのタンクバンパラフ山は、火口壁の上を観光地になっていて火口脇には売店もあり、防災について考えていく必要があるのではないかと述べました。

講演には30名以上の方が参加し、プロジェクターに映し出される各地の火山の写真を見ながら、さらに興味を深めている様子でした。



2017年のモンゴルの現地調査で新しく見つけた火山



大場 司先生



講演の様子

鉱業博物館

5月までの無料開放日予定

- 科学技術週間
4月21日(土)・22日(日)
- 地質の日
5月10日(木)
- 国際博物館の日
5月18日(金)～5月20日(日)

平成29年 鉱業博物館来館者アンケート

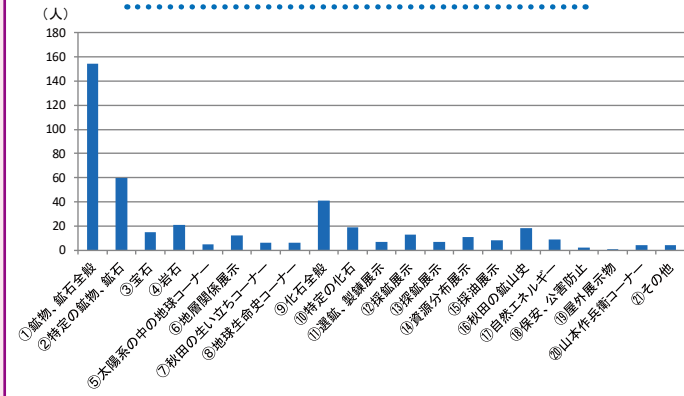
集計結果から

その2

前号ミニミニマイズ 263 号では、平成29年の鉱業博物館来館者アンケートの集計結果のうち、当館がどのように認知されているのかについて報告しました。今回は、皆さんからいただいた感想や提言について紹介します。この集計は、平成29年7月1日から11月20日までの来館者のうち、アンケートにお答えいただいた590名の回答をまとめたものです。

面白かったもの、興味を引かれたものについては、1階展示室の鉱物や鉱石の種類・数が豊富で見応えがあった、という感

面白かったもの興味を引かれたもの (自由記述からグループ分け)



想が最も多くありました。また、蛍光鉱物や黒鉱、北投石などの鉱物・鉱石の他、油田関連の展示を挙げた方もいらっしゃいました。2階展示室では、化石の標本や深海コーナーの展示、3階展示室では、世界鉱産図（地球儀）、日本地質鉱産図、採鉱模型、掘削機械などに興味を持った方が多くいました。また、秋田の地質の成り立ちや秋田の鉱山史などのコーナーがあり、秋田県について詳しく知ることができて良かった、との声も寄せられました。

博物館への意見として、夏季に2階・3階に冷房がほしい、体験型の展示を増やしてほしい、秋田大学に関連した展示が見たい、などの要望がありました。当館では2月3日（土）まで、平成29年度鉱業博物館特別展「鉱山バーチャルリアリティ～仮想空間で鉱山を知る・体験する～」を開催しました。この特別展は、鉱山現場の映像や画像をバーチャルリアリティで仮想体験できるものでした。会場では、秋田大学国際資源学部の履修科目「海外資源フィールドワーク」について紹介するパネルも展示しました。他にも、紹介しきれないほどたくさんのご感想、ご意見をいただきました。ご協力ありがとうございました。お答えいただいたアンケートは、博物館運営の改善に役立たせていただきます。

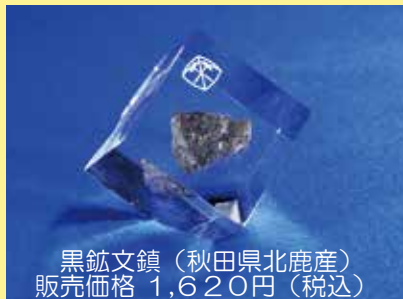


日本地質鉱産図（左奥）と世界鉱産図

ミュージアムショップからの お知らせ

くろこうぶんちん 黒鉱文鎮

再入荷しました！



黒鉱文鎮（秋田県北鹿産）
販売価格 1,620円（税込）

ミュージアムショップの販売商品「黒鉱文鎮」は昨秋から品切れしておりましたが、再入荷し、3月より販売しております。品切れの際は、大変ご迷惑をお掛けしました。この文鎮は、秋田県産の黒鉱を透明アクリル樹脂に封入した、鉱業博物館オリジナル商品で、お土産や記念品としてもご利用いただいています。鉱業博物館へお越しの際は、ぜひチェックしてみてください。

黒 鉱

「黒鉱」は日本を代表する鉱石で、世界的にも「kuroko」という学術名称が通用します。おもに閃亜鉛鉱・方鉛鉱・黄銅鉱などの鉱物から構成され、多くの金属を含んでおり、亜鉛・鉛・銅などの主成分原料のほか、金・銀・ガリウム・ゲルマニウムなどを副成分元素として含みます。黒鉄鉱床の中には、黒鉄鉱の他に、主に黄鉄鉱・黄銅鉱からなる黄金色の「黄鉄鉱」、石英を多量に含んで白っぽく見える「珪鉄鉱」も産出します。



館内展示標本の黒鉄鉱
(秋田県小坂鉱山)

鉱業博物館サイエンスボランティア募集中

鉱業博物館では、平成30年度鉱業博物館サイエンスボランティアを募集します。サイエンスボランティアは、博物館の様々な活動に参加し、運営をサポートします。活動内容は、館内の案内や、団体見学時の誘導、環境整備、工作や情報分野の作業などです。

鉱物や化石が好き、鉱山に興味がある、木工や電気などの特技を活かしたい、社会貢献活動をしたい方などの参加を募集しております。下記問い合わせ先まで、お気軽にお問い合わせください。



- 活動期間 平成30年4月1日～平成31年3月31日までの一年間
- 活動内容 見学者への案内と説明
見学のサポート
館内外整備のサポートなど
- 募集対象 高校生以上の方であれば、どなたでも参加いただけます。

問い合わせ先 鉱業博物館 事務室

TEL: 018-889-2461
(土日祝除く9時～16時)

E-mail: w3admin@mus.akita-u.ac.jp